

平成28年度第1回 鎌ヶ谷市子ども・子育て会議 会議録

1 日時 平成28年10月13日（木） 10:00～11:00

2 場所 鎌ヶ谷市役所本庁舎6階 第1・第2委員会室

3 出席委員

引田満委員、西智子委員、松岡康太郎委員、山本幸子委員、甲斐貴子委員、松村幸江委員、矢作政子委員、皆川清子委員、鈴木恵美委員、大西満委員、賀川陽子委員、加羽沢こずえ委員

4 事務局

斉藤健康福祉部参事（幼児保育課長）、小笠原こども支援課長、三橋こども総合相談室長、高橋子育て支援センター所長、鈴木幼児保育課主幹（幼児保育課施設整備係長）、荒川幼児保育課副主幹、星幼児保育支援係長、今井こども支援係長、能登谷主任主事（こども支援課）

5 記録 能登谷

6 傍聴者 0人

7 議題

- (1) 鎌ヶ谷市子ども・子育て支援事業計画における教育・保育の量の見込み（利用定員総数）、提供体制の推進策及び実施時期の変更について【諮問事項】

8 配布資料

諮問書

次第

配布資料一覧

資料1 教育・保育の量の見込み（利用定員総数）、提供体制の推進策及び実施時期の変更について

資料2 教育・保育の量の見込み（利用定員総数）、提供体制の推進策及び実施時期

の変更（案）

資料3 対照表

9 会議内容

《議題》

（1） 鎌ヶ谷市子ども・子育て支援事業計画における教育・保育の量の見込み（利用定員総数）、提供体制の推進策及び実施時期の変更について【諮問事項】

① 事務局が資料1～3に基づき説明

② 質疑応答

委員 平成29年度に認可保育所1施設と小規模保育所1施設を開設することとなっているが、開設場所はどこになっているのか伺いたい。

事務局 認可保育所は鎌ヶ谷大仏駅から徒歩5分程度の立地に開設する予定となっております。また、小規模保育所については、初富駅前開設する予定となっております。

委員 新規に開設する施設のそれぞれの定員数を教えてもらいたい。

事務局 認可保育所については定員90名、小規模保育所については定員19名となっております。

委員 幼稚園の確保策が約3,000人となっており、平成31年度まで増減がないこととなっているが、3歳児以降における幼稚園を活用した待機児童対策について考えがあるのか伺いたい。

事務局 幼稚園を活用することの重要性については認識しており、窓口などにおいてPR活動などを実施していきたいと考えております。

委員 既存保育園の定員の組み換えなどによって待機児童対策を行うことは可能であるか伺いたい。

事務局 保育園の定員等については、年齢や床面積などに基づいて基準を設けております。現状でもできる範囲で受け入れを行っている状況でございます。

委員 隠れ待機児童や潜在的待機児童については、どのように把握しているのか伺いたい。

委員 潜在的待機児童については、全国で25万人ほどいると推計されている。正確な数を把握することについては、困難であるが、1歳児検診や1歳6か月児検診を行う際にアンケート調査などを実施することにより、ある程度把握することは可能であると思われる。

ただし、かなりの業務量が想定されることや、その結果から推定される潜在的待機児童数を本計画に盛り込むことは難しいと思われる。まずは、現状で発生している待機児童を解消するとともに、保育園の質の向上を行うことが先決ではないかと思われる。

委員 市の保育に関する今後の方針について伺いたい。

事務局 保育を必要とするすべての児童が利用できるよう保育所等を整備し、子育て世代にやさしい街を目指しております。

委員 保育園を増設する際に問題となることは何か伺いたい。

事務局 保育園では、保育士の確保が困難な状況にあり、苦慮しているところです。このため、市では、保育士宿舍借上げ支援事業、保育補助者雇上げ強化事業などの補助事業を実施し、保育士の確保、離職防止を図り、民間保育園の運営が安定的にできるよう支援しております。

委員 保育園を増設するなど、保育に関する施策を実施していることはわかったが、一方で放課後児童クラブに関する施策が充実していないと思われる。その点について伺いたい。

事務局 本市の放課後児童クラブについては、9学区において10施設を運営しております。

現在、待機児童は発生していませんが、鎌ヶ谷市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例に基づき、1人あたりの床面積を1.65平方メートルとすると定められていることから、これを満たしていない施設の改修や増設を行っているところでございます。

平成28年度につきましては、鎌ヶ谷小学校に鉄骨造2階建ての施設を建設中であり、平成29年1月下旬には完成する予定となっております。

また、平成29年度につきましては、中部小学校放課後児童クラブの建設及び初富小学校放課後児童クラブの改修を実施する予定となっております。

委員 0歳児から3歳児までは、家庭で親の手で育てていくことが重要であると考えている。現在の社会情勢から両親が共に働いていくことが大切であると考えられており、子どもを保育園等に預けることが一般的であると考えられている。しかしながら、現在でも0歳児から3歳児までを家庭で育てていきたいと考えている保護者もおり、その保護者の意見も踏まえて計画を策定していただきたい。

委員 0歳児から3歳児までの児童を育てる環境については、保育園等に預け

た場合でも家庭で育てた場合でも、その後の成長に差は見られないとの研究結果がある。大切なことは、どちらの場合も0歳児から3歳児までを育てる環境を整備することや保護者の支援などを実施していくことであると考えている。

③ 決議結果 承認（全員一致）

10 その他

事務局より、次回の子ども・子育て会議に関する日程等について説明。

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するため、次に署名する。

平成28年11月17日

氏 名 甲斐 貴子

氏 名 松村 幸江